

**雲南省峨山県彝族の瑪賀念神話**  
**—中国にみる三輪山神話〈苧環の糸〉の風景—その2」**  
**【サマリー】**

百田弥栄子

私は近年中国の三輪山神話について追究している。『中日文化研究所論文集』には第3号に「中国にみる三輪山神話の系譜—〈苧環の糸〉の風景—」を提出した。説話・伝承学会創立二十五周年記念論集『説話・伝承の脱領域』（2008年3月 岩田書院）に小論「中国の苧環の糸—三輪山説話—」を寄稿したのがその始めである。

これまで私は中国の三輪山神話を16事例収集した。その大半が雲南省に広く居住する彝族が詠うもので、雲南省楚雄彝族自治州の「曇華山の伝説」「黒木越と色絡米」「包頭王村の来歴」「阿麼特格の故事」等について紹介した。

第5号の上記の小論では雲南省玉溪市峨山彝族自治县大龍潭富良棚と、大龍潭一帯の彝族の「瑪賀念」と「瑪呵尼」を取り上げた。同型の神話で、共に彝語で「嫁に行かぬ娘」の意。私は伝承資料を吟味し文献資料も援用し、更に横田素子氏に同道をお願いし、雲南大学（当時）の何大勇氏の四輪駆動車で現地を訪ねて、人文地理的な景観も確認した。

「瑪賀念」は美しい娘の元に若者が蓑を羽織ってやって来る、蓑に針を刺し込んで糸をたどると龍潭に伸びていた。「瑪呵尼」も鱗に麻糸を通した針を刺し込むと、糸は大龍潭に続いていた。若者の素顔はどちらも龍で、共に「苧環の糸」のモチーフを語っていた。

大龍潭咱拉黒村を訪ねると、山頂に瑪賀念を尊尚する堂々たる墳墓があった。今なお村と村人の平安を加護していると、子孫も村人も信じている。瑪呵尼も死後は美しい山河に変じて、村人の安寧と五穀の豊饒を見守っているという。中国の三輪山神話は今に通じる神話伝説であった。